かんだに
神谷遺跡現地説明会資料

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
平成２６年7月１９日（土）

はじめに

島根県埋蔵文化財調査センターでは、国土交通省から委託を受けて一般国道９号（朝山大田道路）改築工事予定地内の遺跡の発掘調査をおこなっています。

このうち、久手町波根西地内の神谷遺跡では、７世紀後半～８世紀（現在からおよそ１３００年前）の「横口付炭窯」が確認されました。島根県で５遺跡め、石見部では初めての発見となります。

このたび、現地説明会という形で公開させていただくこととなりました。この機会に遺跡を間近にご覧いただき、石見の古代に思いをはせていただければ幸いです

（１）遺跡の位置と周辺の環境

神谷遺跡の位置は、旧波根湖であった平野部を望む丘陵上にあたり、南北に細長い尾根の北向き緩斜面の中腹、標高３８～４３m付近です（3ページ地図参照）。周辺には、丘陵にはさまれた谷を流れる河川沿いに、縄文・弥生時代にさかのぼる遺跡が知られています。古墳時代後期にはいって遺跡の数は急増し、古墳の一種である「横穴墓」が多数つくられます。古墳時代後期～奈良時代にかけて、神谷遺跡の東隣の鈴見Ｂ遺跡、作り付け竈をもつ住居跡が多数確認された市井深田遺跡のような、集落遺跡も見つかっています。

（２）神谷遺跡で発見された主な遺構

「横口付炭窯」３基

（２）「横口付」炭窯の特徴

横口付炭窯は、山の斜面に長いトンネルを掘ってつくられた炭窯です。トンネル部（焼成室）の横には複数の横口（炭の掻き出し口）を設けています（4ページ想像図参照）。

横口付炭窯は、分布の中心である岡山県では、横口付炭窯と製鉄遺跡が近接して見つかることが多く、製鉄に使う炭を大量生産するのが主な目的である炭窯だと考えられています。作られた時期は古墳時代の終わりから平安時代にわたります。

（３）横口がつけられた目的

横口がつくられた最初の目的は、酸素の供給口という意味と、窯の中の炭を掻き出すためだったと考えられています。他県で調査された炭窯の事例では、残っていた炭の方向が横口付近だけバラバラだったことが確認されています。出現期の横口付炭窯は、横口が短い間隔で並ぶのが特徴です。また、上から見た形が ）（ 形をしており、道具を突っ込んで左右に動かしながら炭を掻き出すのに適した構造をしていました。

ところが、時代が下ると、横口の上から見た形が｜｜形となっており、間隔も長くなっています（神谷遺跡の窯もこのタイプに入ります）。このような形の窯の場合、横口からすべての炭を掻き出すことはできなかったと思われます。

（5）神谷遺跡の炭窯

1号炭窯

・焼成室の長さは６ｍ

・東側に煙出しの穴、西側に焚口を設けています。５つの横口が開けられています。

・煙出しは天井が残っており、煙出しの本来の形がわかります。

・焚き口から煙出しへ向かって、床面はゆるやかに上がってきます（2号窯、3号窯も同様です）。

・操業の最終段階の焚き口から少しずれた所に、石が積みあげられた状態で見つかりました。石は熱を受けて黒く変色していました。

・この石積みのある位置が最初の焚き口です。熱を受けた石は操業時に焚き口をふさぐために使われたと考えられます。

2号炭窯

・焼成室の長さは６ｍ

・東側に焚口、西側に煙出しの穴を設けています（1号窯とは逆向き）。

・窯と直交する方向（谷側）に向かって、５つの横口が開けられています。一番東側と一番西側の横口は運よく天井が残っており、横口の本来の形がわかります。

・床面には炭が大量に残っていました。炭の堆積層は厚さ５ｃｍありました。

3号炭窯

・全長１１ｍ。焼成室の長さは推定９ｍ（神谷遺跡の窯の中で一番長い）。

・東側が焚口、西側が煙出しの穴です。複数箇所の横口が開けられています。

・3号窯は神谷遺跡で最初に作られた炭窯です。3号窯の後に1号窯と2号窯が作られました（1号窯と2号窯の新旧関係は不明）。

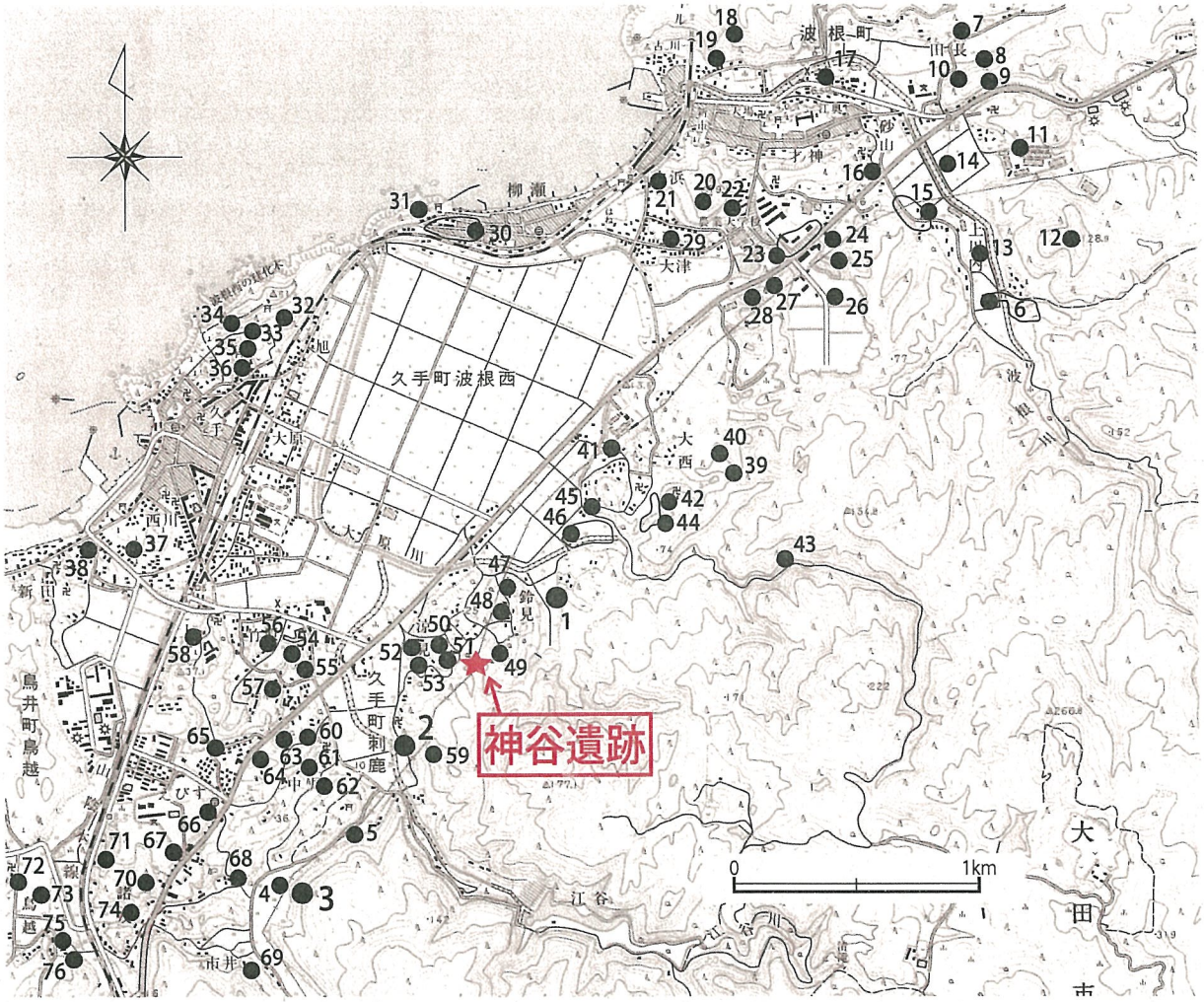
（6）出土遺物

1号窯の石組からは高坏の破片が見つかりました。これにより、1号窯の時期が7世紀なかば（古墳時代のおわり）ということがわかります。2号炭窯からは、ほぼ完全な形で土師器の甕（奈良時代）が見つかりました。2号炭窯が機能を停止した後に埋められたようです。炭窯を覆っている層から出土した遺物は多くが破片となっていましたが、残りの良いものは古墳時代終わりから奈良時代のものでした。

（7）意義

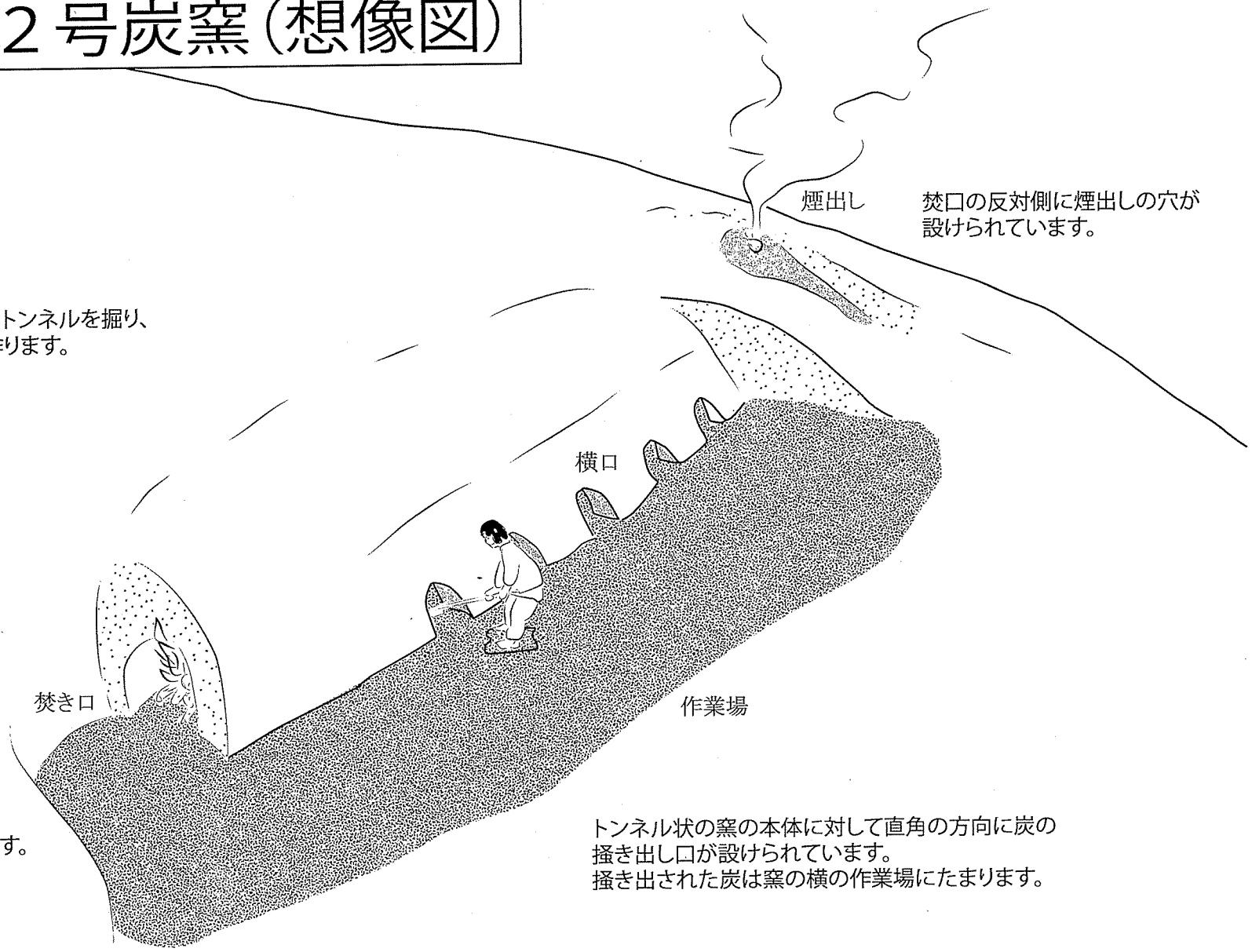
島根県内でこれまで見つかった横口付炭窯（6ページの表参照）は、いずれも出雲部での発見で、石見地方では初の発見例です。製鉄との深い関係があるとされる炭窯で、当遺跡周辺で古代に遡って製鉄が行われていた可能性がでてきました。また、横口付炭窯としては珍しく、製品である炭が掻き出されないまま比較的良好な状態で残されており、当時の炭作りの技術を解明できる考古資料となりました。

神谷遺跡と周辺の遺跡



1	鈴見Ｂ遺跡	2	荒槇遺跡	3	市井深田遺跡	4	中尾Ｈ遺跡
5	門遺跡	6	高原遺跡	7	前谷Ｂ遺跡	8	前谷Ｃ遺跡
9	幸迫谷横穴墓	10	前谷Ａ遺跡	11	田長横穴墓	12	旭山城跡
13	波根川遺跡	14	田長遺跡	15	上川内遺跡	16	砂口遺跡
17	江奥遺跡	18	金比羅山横穴墓	19	東灘遺跡	20	刺鹿城跡
21	中浜遺跡	22	砂山遺跡	23	松田谷横穴群	24	天王平廃寺
25	高砂遺跡	26	西迫横穴	27	中山曽根横穴	28	熊屋谷横穴群
29	大津遺跡	30	柳瀬西遺跡	31	鰐走城跡	32	旭遺跡
33	刈田神社裏山Ｂ遺跡	34	刈田神社裏山Ａ遺跡	35	刈田神社裏山遺跡	36	刈田神社横遺跡
37	新田Ｂ遺跡	38	新田Ａ遺跡	39	暮石横穴群	40	銭神山横穴群
41	大西Ｄ遺跡	42	大西大師山横穴群	43	六曽根遺跡	44	大西Ａ遺跡
45	大西Ｂ遺跡	46	大西Ｃ遺跡	47	鈴見Ａ遺跡	48	鈴見上ケＡ遺跡
49	涼見上ヶＢ遺跡	50	涼見Ｄ遺跡	51	涼見Ｂ遺跡	52	涼見Ａ遺跡
53	涼見Ｃ遺跡	54	竹原古墳	55	竹原Ｂ遺跡	56	竹原Ａ遺跡
57	竹原Ｃ遺跡	58	市庭遺跡	59	岩山城跡	60	中尾Ｃ遺跡
61	中尾Ｄ遺跡	62	中尾Ｅ遺跡	63	森ノ上遺跡	64	辻遺跡
65	中尾Ｂ遺跡	66	諸友大師山横穴群	67	二中横穴群	68	中尾横穴
69	市井遺跡	70	山田庫夫宅裏横穴群	71	鳥越Ａ遺跡	72	鳥越Ｂ遺跡
73	中祖遺跡	74	諸友西横穴群	75	鳥越Ｃ遺跡	76	栗林Ｃ遺跡

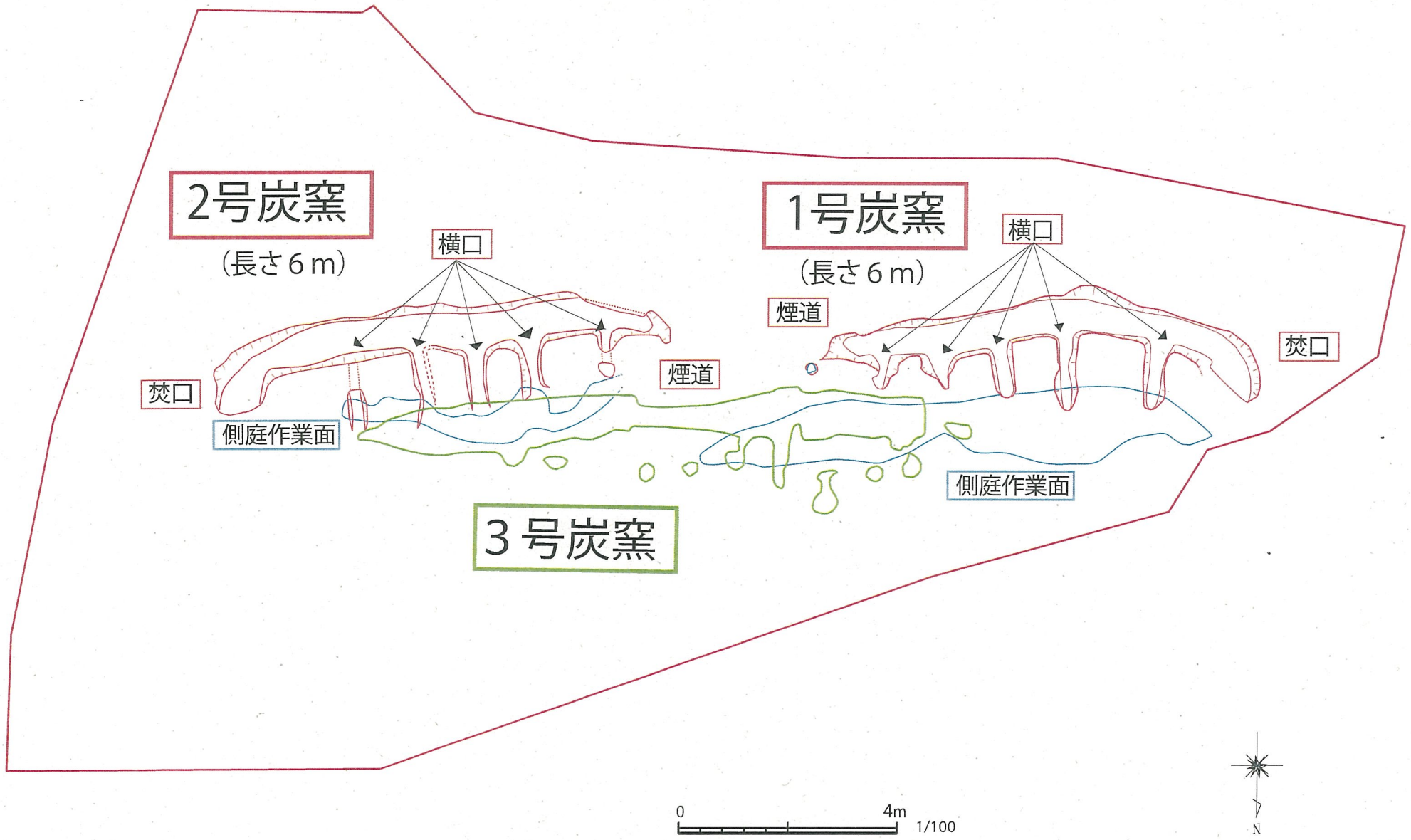
操業時の２号炭窯（想像図）



「横口式炭窯」は、山斜面に長いトンネルを掘り、
トンネル状の窯の内部で炭を作ります。

手前の焚口で火を燃やします。

トンネル状の窯の本体に対して直角の方向に炭の
掻き出し口が設けられています。
掻き出された炭は窯の横の作業場にたまります。



神谷遺跡遺構配置図（S=1/100）

（参考）島根県内で確認された横口付炭窯

No.	遺跡名・名称	所在地	焼成室		年代	備考
			全長	横口数		
1	布志名大谷Ⅱ遺跡 １号窯	松江市玉湯町布志名	7.5m	8	7C 後半	
2	布志名大谷Ⅱ遺跡 ２号窯		6.5m	6	7C 後半	
3	白石大谷Ⅰ遺跡　横口付製炭窯	松江市宍道町白石	8.5m	6	7C 後半	
4	屋敷古墳群 Ⅱ区SX-01	松江市宍道町佐々布	推定10m	7	不明	掘削途中放棄
5	三井Ⅱ遺跡00-4区 横口式炭焼窯 １号窯	出雲市斐川町大字三井	－	1以上	不明	
6	三井Ⅱ遺跡00-4区 横口式炭焼窯 ２号窯		8.5m	6	8C 以降	
7	神谷遺跡１号炭窯	大田市久手町波根西	6.0m	5	7C後半～8C	
8	神谷遺跡２号炭窯	大田市久手町波根西	6.0m	5	7C後半～8C	
9	神谷遺跡３号炭窯	大田市久手町波根西	－	1以上	7C後半～8C	検出中